



～高崎市立中央図書館のお知らせ～

### 第3号

2019（令和1）年7月31日発行

編集・発行：高崎市立中央図書館

〒370-0829 高崎市高松町 5-28

TEL 027-322-7919

FAX 027-324-3423

<http://lib.city.takasaki.gunma.jp/>

## 図書館の仕事



### CDの受入編

図書館では、本以外にもCDやDVDなどの視聴覚資料の受入れもしています。

今回は、CDの受入れ作業をご紹介します！

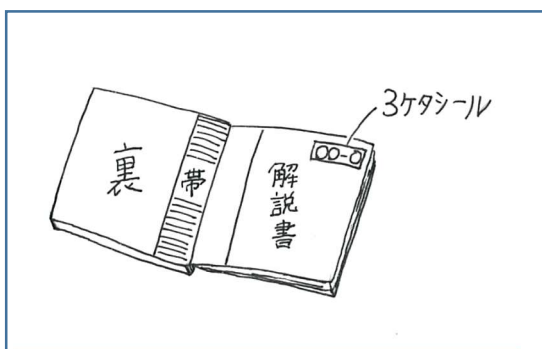


#### ①装備

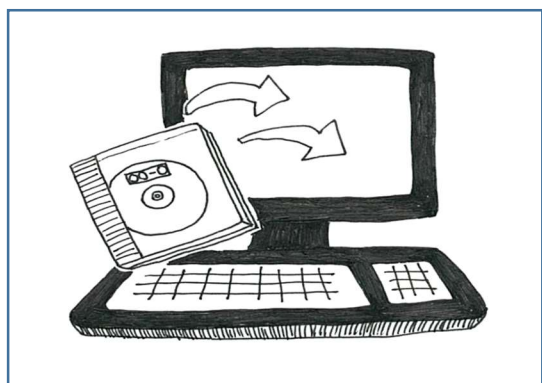
まずは、CDの装備をします。

バーコードの下3桁のシールを解説書とディスクに貼り、ケースの裏に解説書をつけ、背表紙になる帯に背ラベルを貼ります。

①



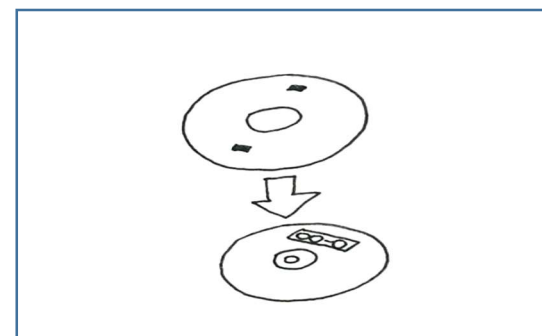
②



#### ②データ入力

装備が終わったら、コンピューターにタイトル、アーティスト名、出版者、曲目などを入力します。

③



#### ③ICタグ装着

最後に、ICタグをディスクに装着します。



ICタグは電子装置のため、カーステレオ、スロットインタイプのプレイヤー、ゲーム機等での再生は、機器の故障の原因となる場合がありますのでご遠慮ください。



このようにして、皆様にCDの貸出ができるようになります。

## 一般書

### 『冒険の森へ 傑作小説大全 1 漂泊と流浪』

集英社

冒険小説、ハードボイルド、純文学、ホラー小説など、ジャンルの壁を越えて短編や長編も色とりどりに集めた、全 20 巻の新しい物語大全です。

第 1 巻「漂泊と流浪」では、江戸川乱歩「白髪鬼」や井伏鱒二「ジョン万次郎漂流記」などジャンルを超えた冒険を楽しめます。

No  
Image

### 『世界をまどわせた地図』

エドワード・ブルック=ヒッチング 著  
日経ナショナルジオグラフィック社

神話や伝承として語り継がれていたもの、探検家の間違いや誤解から生まれたものなど、実在しない国や島を集めた 1 冊です。130 点を超える美しい古地図と貴重な図版・写真が創り出す幻の世界へと、冒険に旅立ってみませんか。

No  
Image

## 郷土資料

### 『歩いて旅する中山道』

山と溪谷社

中山道は江戸時代に江戸と京を結んだ大幹線道路でした。こちらの本は、当時の中山道をできるだけ忠実に歩けるようにされたウォーキング MAP です。先人たちと同じ道を歩いて江戸時代の旅人の気分を味わってみませんか。

No  
Image

### 『教室の亡霊』

内田康夫 著 中央公論新社

日本全国を取材旅行しながら事件に巻き込まれ、それを解決していく浅見光彦。

この本の旅の舞台は群馬県です。聞きなれた地名が出てくると、思い描く物語の世界もリアリティが増していきます。浅見光彦と一緒に事件の謎を解く冒険に出発しましょう。

No  
Image

## 視聴覚資料

### DVD『スタンド・バイ・ミー』

〔監督〕ロブ・ライナー  
〔原作〕スティーヴン・キング  
〔出演〕ウィル・ウィートン リバー・フェニックス

オレゴンの田舎町に住む、それぞれ心に傷を持った 4 人の少年たちが好奇心から、線路づたいに“死体探し”の旅に出るといふ、ひと夏の冒険を描く物語。

少年時代の忘れられない夏や友情を思い出させてくれる名作映画です。

### CD『夏色音楽』

〔演奏〕JUDY AND MARY 他

定番 J-POP サマー・ソングを詰め込んだコンピレーション CD。暑い夏を涼しげに快適に過ごせるナンバーから、さらにヒート・アップできる楽曲まで、夏を彩るバラエティに富んだ選曲。思わず旅に出たくなる一枚です。

## 児童書

### 『エジソン』

トーベン・クールマン 作 ブロンズ新社

子ネズミのピートは先祖がのこした宝さがしを手伝ってほしいと、ネズミ大学の教授のもとをおとすれました。

大西洋の海底にしずんだ船をめざし、ネズミ用の潜水艦を発明した 2 匹は深い海の底へと潜っていきます。

果たして宝は見つかるのでしょうか…。

No  
Image

### 『ノラネコぐんだんと海の果ての怪物』

工藤ノリコ 著 白泉社

ある日、波うちぎわで魔法の貝がらをひろったノラネコぐんだん。それは海の中を自由に歩くことができる不思議な貝がらでした。ノラネコぐんだんは魔法の貝がらをつかって海の魚をとりほうだい！すると…。

ノラネコぐんだんシリーズ初の長編冒険物語です。

No  
Image

## ぼうけん 冒険の夏



夏といえば、海や山、川など外へ遊びに行くのにぴったりな季節ですね。

でも図書館では、実際には体験できないような冒険と出会うことができるんですよ！

ドキドキとワクワクがいっぱいの、あなただけの冒険の世界を探しに来てみてはいかがでしょうか。

## 移動という名の冒険

原始古代から人々は移動をくりかえしてきた。

ときに日用雑器や家の宝物を携え、ときに家畜といっしょに。

5 世紀後半の時代、榛名山南東麓の遺跡から、渡来系の土器や装飾品に交じって、馬の骨・歯や馬具が出土することがある。

考古学者は、ヤマト王権（特に雄略天皇）の命を受けた渡来系の人々が、馬生産を行うため、はるばる中央山岳地帯を抜ける古東山道を通して移動し、ヤマト王権と同盟を結び、榛名山麓を支配していた首長層に受け入れられ、住みついて放牧していた証と考えている。

当時、馬は交通や軍事面で大きく変革していく契機になった。渡来系の人々は、農業開発・金属加工など、様々な先進技術を持った人々でもあった。これらの技術が、肥沃で広大な土地を有する上毛野地域に普及・定着して、上毛野地域は繁栄していった。のちの奈良時代、上野地域は、蝦夷征討の、馬を中心とした軍事拠点として大和朝廷に位置付けられる。

海を渡って倭国にたどり着き、さらに見も知らぬ東国の未開の地で生活しなければならない運命。そこに何が待ち受けているのか全くわからない。彼らにとって、まさしく冒険の名にふさわしい出来事であつたらう。

（市史担当）



# 図書館

## 今昔〈第3回〉

(前号より続く)

初代は本町、二代目は成田町にありましたが、三代目の図書館は市役所、消防署、警察署といった行政機関が集積していた城址内に昭和40年に建設されました。

この頃は末広町に高崎女子高校、台町には高崎商業高校がありました。また、現在の中央図書館の場所には専売公社が、子育てなんでもセンターのある場所には中央郵便局があるなど、公共施設の場所も随分と変わったのだなと改めて思います。

そういえば、現在の姉妹都市公園の場所にはテニスコートがありました。

中央図書館では昭和34年以後の高崎の住宅地図を閲覧することが出来ます。昭和40年当時の中心市街地の地図を見てみますと、割烹の宇喜代や岡源、藤五デパート、旅館信濃屋といった懐かしい名前が見られます。こうした古い住宅地図を見てみると幼い頃や青春時代の記憶が蘇ってきます。現在の地図と見比べてみると、世代間で会話も弾むと思います。

私が最初に高松町にあった三代目の図書館を利用したのは小学校の高学年で、友達数人とバスで訪れたと記憶しています。二階が入口になっていて、現在と違い本の裏表紙にカードがあり、係りの人がそのカードに記入して貸し出してくれました。以後、よくこの図書館を利用しました。

名曲堂やサカ井楽器店でレコードを見て、天華堂や学陽書房で立ち読みをして(申し訳ありませんでした)、オリオン座、東宝、東映、ピカデリーなどで映画を見るというのが、当時の学生や若者の娯楽だったと思います。

さて、この図書館の前庭では草野球ならぬ草バレーボール大会も行われ、多くの珍プレーを大勢のギャラリーが見物していたものでした。おでこでレシーブしたボールがお堀の土塁の脇の池にポチャン、ということもありましたが、今ではこの池と西側の大きな二本のヒマラヤスギの木だけが「もてなし広場」で往時の図書館や市役所を偲ぶことのできるものとなりました。

さて、この時代までは貸し出しなども全て手処理でしたが、いよいよ次の四代目図書館になると情報化時代を迎え図書館のサービスも大きく変わることとなります。(続く)



もてなし広場にあった三代目図書館

著・高崎市立中央図書館長



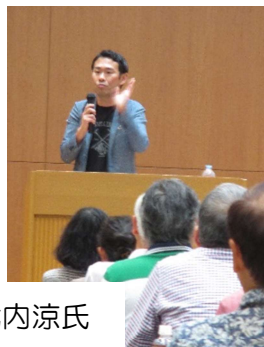
### 武内涼氏講演会「高崎で小説を書くということ」が開催されました。

6月23日(日)に高崎市出身・在住の作家である武内涼氏の講演会が行われました。

小説家を目指すことになったきっかけや、都会にも近く、また豊かな自然も残る高崎で小説を書くことの魅力などをお話しいただきました。

講演後の質疑応答では、来場者の方たちからの様々な質問に丁寧に回答してくださり、2時間にわたる講演会は好評のうちに終了しました。

講演会の様子



武内涼氏



#### 中央図書館 開館時間

火曜～金曜 10時～20時

土日祝日・月曜 10時～17時

休館日 毎月最終水曜日

※ 11月19日～28日は

蔵書点検のため休館

